# 子ども医療費助成が拡充へ！

乳幼児医療ネットワークみやぎが請願署名提出（13年6月6日）

8人になった県議団は、最初に子ども医療費拡充など緊急要望を提出（15年11月27日）

県母親大会実行委員会が毎年知事に要望（上は13年3月28日、下は12年3月21日）

## 県民の思い ついに 県政動かす！

### こじあけたオールみやぎの運動

2013年6月議会に乳幼児医療ネットワークみやぎが県の拡充を求める請願を提出。県歯科医師会や郡医師会など県内750を超える団体の賛同署名を提出し、県に対する意見書を35全市町村から提出させる運動を展開しました。

こうした運動の中で、市町村の制度拡充が大きく前進し、市町村負担への県の支援を求める要請が強まりました。県議会では各会派とも子ども医療費の拡充を求める質問が繰り返されました。知事の方針転換は、こうした「オールみやぎ」とも言うべき運動の広がりが実を結んだものです。

遠藤いく子県議団長の談話

### 県民の声が変化の原動力 全国上回る拡充を

5月27日の市町村長会議で、村井知事が方針を転換し、2017年度から県の子ども医療費助成を拡充する方針を表明しました。

私も先の2月定例会の代表質問で要求しましたが、通院2歳・入院就学前までは全国最下位の水準であり、その一刻も早い拡充は県民の強い願いであり、今回の表明は大歓迎です。県政を動かした県民の世論と運動に確信を持つとともに、今後の焦点はどれだけ拡充するかです。全国平均を上回る拡充となるように、しっかり見守っていきます。

## 日本共産党も8人の県議団で議会論戦の先頭に立ちました！

### その気になれば財源はある

県債管理基金の一般積立金を約200億円も残しておく必要はありません。子ども医療費の助成制度の拡充に活用すべきです。（内藤隆司県議の一般質問＝15年12月9日）

### ワーストワン脱却を

子ども医療費の対象年齢は、文字通りワーストワンになりました。年齢を拡充すべきと何度もこの場から求めてきたが、この願いになぜ応えないのか。（遠藤いく子県議の代表質問＝16年2月24日）

### 市町村まかせをやめよ

県内市町村は独自財政で45億円を助成、一方県は9億円しか助成していません。これでもなお県は、他人ごとのように、市町村まかせを続けるのか。（大内真理県議の一般質問＝16年3月1日）

### 今やみんなが求めている

子育て世代の大きな要求の一つが「子ども医療費助成制度」の充実です。県内の首長がそろって、知事に対象年齢の拡大の声をあげています。（福島かずえ県議の一般質問＝15年12月11日）

乳幼児ネットの要請行動に同席する県議団（15年11月25日）


日本共産党
県議団ニュース
2016年6月　NO.124


発行：日本共産党宮城県会議員団
（事務所）TEL 022(267)1511
（控　室）TEL 022(211)3523
FAX 022(268)6093
http://www.jcpmk.jp/